資料３

委員の皆様からのご意見

・評価を定量化する試みがよい。何をもって効果が上がったかが重要であり、実施回数よりも参加人数で評価するとよい。行政も市民も納得する指標となるべきで、評価基準の見直しも必要かもしれない。

・基本目標ごとの評価指標は「理念が実現されることに近づいているという地域の変化を捉えるアウトカム指標」、基本方針ごとの評価指標は「設定される具体的な施策の進み具合を測るアウトプット指標」としていると思うが、基本目標と基本方針の両方に指標が設定されている理由については説明が必要。

・単年度の進捗評価は、アウトプット指標を主に確認し、次期に向けての５年間の計画評価はアウトカム指標を重視する必要がある。

・若者自身が考えたボランティア活動を支援する仕組みが行政と社協に求められていると思う。

・計画全体として、より分かりやすい表現、言葉づかいとした方が良い。

・「ごみ屋敷」は「セルフネグレクト」などの他の言葉に変えた方が良いのではないか。注釈が必要かもしれない。

・市民と地域、行政と社会福祉協議会の取り組みについて、市民と地域については「役割」に変更されているが理由はあるか。行政と社会福祉協議会の具体的事業が記載されるようであれば、市民と地域についても具体的な事業として何をやるのか記載した方が良いのではないか。具体的な事例として「あいさつをしよう」「出前講座に参加しよう」など。

・成年後見制度の認知度が思ったよりも高く感じた。

・「障害者」「誰一人」「めざす」など、計画通しての統一をした方が良い。